

## 第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

### 1 単元名 10歳の私たちができること

～“届けよう、服のチカラ”プロジェクトを通して～

### 2 単元について

#### (1) 単元の目標

大和田南小学校の総合的な学習の時間の目標「探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにする。」に基づき、単元の目標を「ごみを減らす活動や難民を支援する活動に関心をもち、服の回収を行ったり、身近な商店や商品を見直したりすることを通して、自分たちの活動がよりよい未来を創る活動につながることを理解し、持続可能な視点から今後の消費者としての在り方について考えるとともに、世界の人々や資源を大切にしながら行動したり生活したりできるようにする。」と設定した。

#### (2) 単元についての考え

これまでに児童は、社会科の学習「水はどこから」で、八千代市の水は、地下水と、江戸川の水であることを知り、浄水場や上下水道の整備のおかげで、安全な水が飲めることを理解してきた。また、水の使い方を振り返り、水を大切にするにはどのようなことをしたらよいか考え、思考ツール「座標軸」を使って、一人一人が今後の行動の仕方を変える大切さに気付いてきた。また、福井県大野市が発行・編集している教材、『この水の問題を解いたきみはノーベル賞をとるかもしれない!』を使って、世界の水問題に触れ、水に困っている人々を救うために、様々な支援の方法があることや、アイデア装置が開発されていることを知った。

社会科「ごみの処理と利用」では、八千代市で1日にどのくらいのごみが出て、どのように処分されたり、再度資源として生まれ変わったりしているのかを調べ、理解してきた。ごみを減らすために4R（リデュース、リユース、リサイクル、リフューズ）の活動に取り組む有効性を知り、自分たちが取り組めることを思考ツール「座標軸」でまとめてきた。

単元の一次では、座標軸内にある活動「服をリユースする」について考えることから始める。服を再利用することは、現在日常に行われていることである。渡す対象が親戚だったり、知り合いの家だったり、または古着屋やフリマアプリなどを利用している家庭があった。「個人で」「大人の力が必要」だと思っている活動に対して、10歳の私たちができることを考えていく。一昨年、当時4年生がやっていた活動を想起させ、服を回収する活動は、「子供ができること」「みんなでできること」に当てはまることに気付かせる。「(株)ユニクロフルルガーデン 八千代店」の社員の方に活動の概要を講話で聴き、ごみを減らすために私たちがやっていく活動が、世界の難民の「命を守る」「個性を表現する」ためにつながることを理解できるようにしていく。

二次では、“服のチカラ”の活動をするための計画及び実践をしていく。回収する意義が伝わり、一枚でも多く服を集めるにはどうすればよいか、呼びかけの時期、場所、方法に分けて考え、活動をしていく。新型コロナウイルス感染症対策として、校外での回収活動は控える。「多く集めること」に制限がある中で、「心をこめて集めること」を大切にしていく。そのために回収に協力してくれた児童や保護者にインタビューやアンケートをとり、それぞれの気持ちを知れるようにする。集めた服への思いや集めた手間を知り、成長とともに不必要になってしまった服が、また国や形を変えて、他者にとっての“服のチカラ”になることを願いながら回収活動を続けられるようにする。

三次では、集めた服を送り、どのようなゆくえになるのか知ると同時に、二次で回収した服について振り返り、資源について考える。服を回収して世界の人々の力になることはできたが、これからも自分たちは同じように消費活動を行い、回収し、送り続けていくことが最良なのか考えていく。児童らの体は成長段階で、服のサイズも変わりやすく、同時に代謝量も多く、服が汚れやすいため、単純に買う服の数を減らすという考えは現実的ではないだろう。そこで、エシカル消費（環境や社会貢献に配慮した消費）を促す活動に取り組んでいる企業や団体に関心をもち、消費活動をするときに意識できるようにしていく。

小学校4年生は、自分だけでなく、他人のことについても考えられるようになる時期である。自分たちの消費活動が、地球環境を作る一部になっていることや、自分たちの現在の生活は、世界で見れば決して当たり前ではないことに気づき、10歳の自分ができることを考えることができるようにしたい。

### (3) 単元におけるESDの視点

「ごみの処理と利用」では、ごみを分別して資源回収をすることは、リサイクルにつながると、八千代市クリーン推進課の方からの話で理解を深めている。本単元では、ユニクロの社員の方の講話から、新たに生まれ変わるものが難民と呼ばれる人々のもとに行くことを知る。講師から直に話を聞く中で、現状を知り、切実感を覚え、難民の方々の役に立ちたいという思いを育てたい。

二次の活動後、資源について考える。“服のチカラ”プロジェクトによって、服のリサイクル、リユースが叶ったが、今後はどのように資源を減らせばよいのか、また難民を始め、世界の人々にできる支援を終わらせてよいのか、「学校で、みんなで、授業で」から「家庭で、一人で、未来で」でも続けていけることを考え、行動につなげていく。

身の回りには、同じように見えて、環境や人々を守るための商品とそうでないものがあることや、顧客参加型のリサイクルの仕組みがある店を知り、自分の消費活動について考えていく。

○構成概念 : III 有限性「限りがある」 IV公平性「一人一人大切に」  
VI 責任性「責任をもって」

○能力・態度 : ②未来像を予測して計画を立てる力 ⑤他者と協力する態度

**○めざす姿 : 自分たちの活動がよりよい未来を創る活動につながることを理解し、持続可能な視点から今後の消費者としての在り方を考えるとともに、世界の人々や資源を大切にしながら行動したり、生活したりできるようになる。**

### (4) めざす姿に迫るための手立て

#### 活動意欲を高める事象との出会い

- 社会科「ごみの処理と利用」で、思考ツールの「座標軸」を使うことで、「自分たちができること」を考え、まとめられるようにする。一昨年度前の4年生が服を回収していたことを想起させることで、服を回収する活動は、「子供ができること」「みんなで力を合わせること」に該当する活動だと気付けるようにする。
- ユニクロの社員の方から活動について聞くことで、難民の人々について知るとともに、全国の小中学生も同じ活動が励んでいることから、自分たちにもできることだと、意欲が高まるようにする。
- ユニクロの社員の方から回収後のゆくえを教えてもらったり、周りの人々からの活動の感想を知ったりすることで、さらに自分たちが資源や世界の人々のためにできること、見直すべきことを考えるきっかけとする。

#### 個の思いを追究できる探究的な学習

- 適切な思考ツールを使うことで、子供たちが自分の考えを整理することができるようにする。
- 服の回収活動をして、協力してくれた他学年の児童の感想を聞いたり、商店のエシカル消費を促す活動を調べたりすることで、探究課題の解決として、よりよい方法を選んだり、考えたりできるようにする。
- 振り返りを記入する時間を毎時間確保し、1時間の自分の探究学習を振り返ることで、自分の思いを再認識したり、調整したりできるようにする。

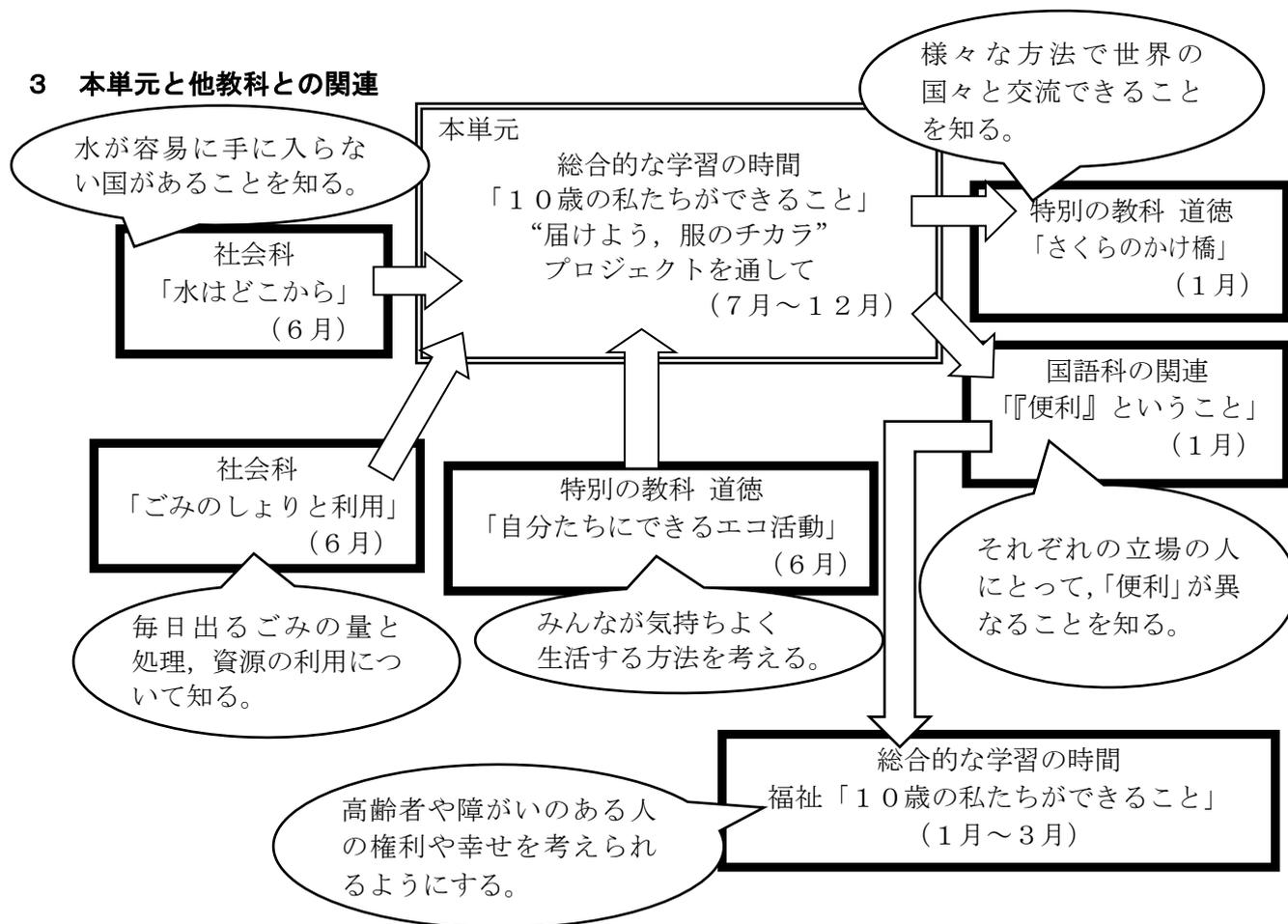
#### 学びを行動化するための手立ての工夫

- ユニクロの社員の方からの話のあとに、服の回収がたくさんできそうな時期、呼びかけ方、回収場所

や方法について、具体的に考える時間を確保し、思考ツールを使って整理することで、自分たちの活動方法を決められるようにする。

- 回収に協力してくれた人の服や活動に対する思いを知ることで、一つ一つに心をこめて集められるようにする。
- エシカル消費について具体的に調べ、まとめ、発表することで、今後の活動を見直すきっかけになるようにする。

### 3 本単元と他教科との関連



### 4 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・“届けよう、服のチカラ”プロジェクトの目的と内容を知り、自分たちにも世界の人々や資源のためにできることがあることがわかる。(知識)</li> <li>・服をたくさん回収するために呼び掛けをしたり、自分が今後できることを探究するために、商店のエシカル消費を促す活動や商品を調べたりすることができる。(技能)</li> <li>・資源や世界の人々のために、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニクロの社員の方から“服のチカラ”プロジェクトや、服のゆくえの話を聞いて、資源や難民の問題を見付け出し、課題を明らかにしている。(課題の設定)</li> <li>・服を回収したり、持続可能な消費活動について考えたりするために、アンケートやインタビュー、自分で商店に出向いて情報を集めていく。(情報収集)</li> <li>・課題解決に必要な情報を取捨選</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に向けた自己の取り組みを振り返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。(自己理解・他者理解)</li> <li>・回収活動や地図にまとめる活動を通して、自分と違う友達のを考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。(主体性・協働性)</li> </ul>

自分の消費活動の仕方を見直し、実行しようとする事ができたのは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 (探究的な学習のよさの理解)	扱ったり、関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 (整理・分析) ・今後の消費者としての在り方について、考えをまとめている。 (まとめ・表現)	・資源や難民の人々のためにできる活動を考え、新たに調べたり、自分で取り組んだりしようとしている。 (将来展望・社会参画)
---	---	---

## 5 単元の全体計画 (全33時間)

学習過程 (時数)	指導上のポイント	・資料 ○思考ツール
第1次  “届けよう服のチカラ” プロジェクトの出会い (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年、当時4年生がやっていた活動を想起し、社会科「ごみの処理と利用」で作成した座標軸を基に、「服のリサイクル」はどんな活動をしているのか話し合えるようにする。思考ツール「座標軸」を使うことで、服を回収する活動は、「子供ができること」「みんなのできること」に当てはまることに気が付けるようにする。</li> <li>・ユニクロの社員の方から活動について聞くことで、難民の人々について知るとともに、全国の小中学生も同じ活動が励んでいることから、自分たちにもできることだと、意欲が高まるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Xチャート</li> <li>○ウェビング</li> <li>○座標軸 (社会科で作成したもの)</li> </ul>
第2次  “届けよう服のチカラ” プロジェクトの計画を立て、実践しよう。 (22)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服をたくさん集めるにはどうすればよいのかウェビングを用いて、個人で考えられるようにする。</li> <li>・ウェビングを班・全体で共有し、多くの人に呼び掛けること、集める時期が必要なことに気付かせ、夏休み中に集めてもらうことを計画できるようにする。</li> <li>・夏休みに服を集めてもらうために呼び掛ける方法を考えられるようにする。意見がまとまらないときは、メリット・デメリットチャートを使って整理し、よりよい方法を考えられるようにする。</li> <li>・各学級でポスターやチラシを作成したり、放送で呼び掛けたりして、2学期に服を回収する活動をするを伝えられるようにする。</li> <li>・回収の方法、場所などについて思考ツールを用いて考えられるようにする。</li> <li>・適した方法を選び、全校に呼び掛けられるようにする。</li> <li>・回収箱を準備し、活動が行えるようにする。</li> <li>・服のチカラプロジェクトを経験した6年生にアドバイスをもらうことで、それぞれの服への思いがあることを知り、心をこめて集めるきっかけとなるようにする。</li> <li>・自分や学校の保護者にアンケートをとり、それぞれの服への思いを知ることができるようにする。</li> <li>・服への思いを知ること、次は難民のためになることを願いながら、振り返り活動ができるようにする。</li> <li>・集めた服の枚数を数え、送り、ユニクロの社員の方に頼んで、どのようなゆくえになったのか知ることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウェビング</li> <li>・メリット・デメリットチャート</li> <li>○XYWチャート</li> </ul>
第3次  10歳の私たちができることは他にもあるだろうか。 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服の回収を終えた児童らに対して、ユニクロの方から、「服のチカラ」のように、資源や世界の人々のためになる活動が他にもないか、問いかけてもらい、エシカル消費(環境や人々に優しい消費活動)について考えられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs ガイドブック</li> <li>○ペン図</li> </ul>

<p><b>6 / 8</b> <b>柏原学級</b></p>	<p>ようにする。「学校で、みんなで、授業で」でなく、「家庭で、一人で、未来で」になったとき、どんなことができるか考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを準備し、家の人に環境や世界の人々のために気を付けていることを尋ねられるようにする。</li> <li>・「サステナブルラベル」や「地産地消」など、馴染みのない言葉が出てきたときは調べる時間をとり、学級全体で理解できるようにする。</li> <li>・資源や世界の人々のための活動や商品について、家の人に聞いたことや、調べたことについて、どのようなものがある、ベン図を用いて考えられるよ「人々を守る活動」「資源を守る活動」に、ベン図で分けてまとめるようにする。</li> <li>・「ごみのしよりと利用」で、ごみを減らすための活動と似ている活動を確認する一方で、中には環境や人々のためになる商品があることに興味をもち、調べたいと意欲を高められるようにする。</li> <li>・具体的な商品（紙ストロー、包装紙無し商品等）や注目すべきラベル（サステナブルラベル）を共通理解して、さらに家で探せるようにする。</li> <li>・実際の商品やラベルの付いたパッケージなどは、持ってきてよいことを伝える。</li> <li>・持ってきた商品を見せ合い、同じ品目でも、ラベルが付いなかったり、詰め替えでなく使い切りの商品があったりすれば持ってくることを提案し、参加できない児童が出ないようにする。</li> <li>・見つけた商品やラベルについて紹介し合い、ウェビングマップにまとめ、共通点に気が付けるようにする。</li> <li>・自分の今後の消費活動について、行動を変えようと思ったり、意識が高まったりしたことを振り返れるようにする。</li> <li>・ユニクロの方に見つけたエシカル消費の活動について、考えたことも踏まえて手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>○ベン図</li> <li>・紙ストロー</li> <li>・地産地消ラベル</li> <li>・サステナブルマークの付いている商品</li> <li>○ウェビングマップ</li> </ul>
-------------------------------------	---	--

## 6 本時の指導（3次 6 / 8） 整理・分析

### （1）目標

見つけた資源や人々のための商品について伝え合って思考ツールにまとめ、それらの共通点に気が付き、今後の消費活動を行うための一助となるようにする。

### （2）評価規準

〈思考・判断・表現〉

エシカル消費につながる商品について伝え合い、共通点に気付くことができる。

〈主体的に学習に取り組む態度〉

エシカル消費につながる商品について伝え合い、共通点を見つけようとしたり、今後の消費活動の視点として考えようとしたりすることができる。

### （3）展開

時配	学習活動と内容	□指導上の留意点 ■評価(評価方法)	・資料 ○思考ツール
5	1 前時の学習の振り返りを発表する。 ・木のマーク（F S Cマーク）はたくさん紙商品についていたのが驚きました。	□2次の終わりに、ユニクロの社員の方から「服のチカラプロジェクトが終わっても、資源や人々のための活動を続けてほしい」というメッセージをもら	教室側面 ○ベン図 ・サステナブル

	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚のマークが付いているツナ缶とそうでないものがあるのでよく見たいと思いました。</li> <li>食品ロスを減らすために、商品にアレンジレシピを加えていることがわかりました。</li> <li>他にもどんなエシカル消費の商品があるか知りたいです。</li> </ul>	<p>い、身の回りのエシカル活動について興味をもてるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 前時までに持ってきた商品を見せ合い、同じ品目でも、ラベルが付いてなかったり、詰め替えでなく使い切りの商品があったりすれば持ってくることを提案し、参加できない児童が出ないようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童の振り返りを紹介し、友達と伝え合う活動であることを示す。</p>	<p>マーク 掲示</p>
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>見つけた商品について友達と伝え合おう。</p> </div>			
1 2	<p>2 調べたエシカル消費の商品やラベルについて紹介し合い、ウェビングマップに書き加えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カエルマークは、コーヒーや紅茶に付いていました。</li> <li>人の役に立つ活動の中にふれあいカレンダーや、6年生が作ってくれた商品も入ると思います。</li> <li>詰め替え商品を買うのはごみが減るとい理由からと、安いからだと言っていました。</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 見つけた商品を、エシカル消費の視点ごとに紹介し合えるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 事前に家で商品を探すときは、家の人に「なぜこの商品を選んだか」聞くように伝え、商品に対しての思いも聞いていく。</p> <p><input type="checkbox"/> 同じ品目でも、サステナブルラベルがある商品とない商品があることに気が付くことができるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 発表して終わりではなく、似ているところや違うところ、気が付いたところなど考えながら聞くよう助言する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品ラベル</li> <li>ノート</li> <li>ウェビングマップ</li> </ul>
1 0	<p>3 紹介し合った商品の共通点を探していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地産地消は農産物が多くて、社会のクリアファイル(千葉園芸全国順位)のものが多いと思う。</li> <li>サステナブルマークが付いている商品には、コーヒーやバナナが多いと思う。</li> <li>詰め替え商品は日用品が多い。</li> <li>回収できるものはプラスチックの商品が多いと思うな。</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> ウェビングマップを見て、気が付いたことはないか考え、共通点を探せるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 共通点の探し方について、商品の特徴に注目しながら探すことを伝え、児童がやり方を理解してきたら自分で考える時間にする。</p> <p><input type="checkbox"/> 共通点を赤で書きこむことで、ウェビングマップに書き込んだ内容と差別化できるようにする。</p>	
1 3	<p>4 見つけた共通点について、全体で紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木のマーク(FSCマーク)は、紙のものに多く付いているから、みんなで気を付けていると思う。</li> <li>マークの付いているものは、バナナやコーヒーが多くて、農家の人を守っているんだと思う。</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 友達の発表した考えを青で書き込むことで、自分の考えと差別化できるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 発表した共通点に加えて生産者の思いも触れられるようにする。</p> <p>■エシカル消費につながる商品について伝え合い、共通点に気付くことができる。(発表)</p>	
5	<p>5 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私の家には、サステナブルマークが付</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 個人で学習を振り返る時間を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りカード</li> </ul>

	<p>いているものはなかったけど、地産地消をしているから、エシカル消費に協力できると思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・似たような品物なのに、環境に気を付けているものとそうでないものがあるのが面白いと思いました。</li> <li>・みんなが調べたことを紹介し合うことで、共通点があつて驚きました。</li> <li>・家の人にサステナブルラベルを教えてあげて、これからはある商品を選んでほしいと思いました。</li> <li>・ユニクロの人に見つけたエシカル消費について教えてあげたいと思いました。</li> </ul>	<p>□気付いたことや、これからやってみたいことを書くように促す。 (振り返りカード)</p> <p>□友達と伝え合うことで新たに気付きがあったと振り返っている児童の振り返り文を紹介する。</p> <p>■エシカル消費につながる商品について伝え合い、共通点を見つけようとしていたり、今後の消費活動の視点として考えようとしていたりすることができる。</p> <p>□今回気付いたことをユニクロの方に伝えたいという思いを書いている児童がいたら取り上げ、次回お礼の手紙を書く活動につなげられるようにする。</p>	ド
--	--	---	---

(4) 板書計画

